



「平和の旅へ」。1000人の大合唱 ぜったい聴いてほしいんです。

♪開幕まであと
67日

私はこうして
チケットを
広げています

◆ すばらしい企画がいっぱいの大音楽会（10月16日・アリーナ）ですが、私は、友人や知り合いの人たちみんなに「平和の旅へ」を、ぜったい聴いてほしいと思い、せっせと手紙を書いています。私自身、最後の1000人の大合唱はどんな雰囲気だろうとワクワクしています。

先日から知り合いや友だちに「後で電話するから」と10数通チケットのお願いの手紙をだしました。いざ、電話をかける段になって「夜にかけよう」「明日でも・・・」と悩んでいたら、相手の方から「電話かかってこないから」と、心配して逆にかかってきました。しかも「コーラスにあまり関係ない人だから、1枚買ってもらえれば」と思っていたら、なんと2枚も。勝手に決めつけて悪かったなと思いました。（母さんコーラス樹・天本）

母さんコーラス樹では、天本さんらのチケット普及の経験を出し合い、「友人・知人の一覧表をつかって、手紙を出したり、一日に1人、2人と訪ねたり、預けたチケットも書き込んで広げています。ぜひこうした活動に学んで頑張りましょう」「2～3人でグループを組んで、行動日や行動時間をつかって、ワイワイ言いながら行動したら」などと話し合いました。

ナガサキの想いがいっぱいプログラム。

オープニング

幻想曲長崎ぶらぶら

作詞家・中西礼氏の小説でも知られた「長崎ぶらぶら節」。祭典では、♪幻想曲長崎ぶらぶら（池田松洋作曲）を、1日目（15日）の「平和への想いコンサート」のオープニングで、4つの女性合唱団と児童合唱団の合同で約100人が演奏します。

「♪長崎名物、ハタあげ盆まつり・・・」と、鼻歌まじりに浜ぶら散歩と洒落こむ、お祭り好きの長崎人。

「長崎くんち」でも、石畳に、そのまま正座して三味線を弾きながら歌う、粋な姿は全国にも知られています。

本番は長崎くんち直後の10月15日、中澤伸元先生の指揮で練習にも気合が入り、その雰囲気は迫力満点です。そのパワーに子どもたちの声が、どんなハーモニーを醸し出すか楽しみです。女性たちの心配は「衣装」。長崎のお色気あふれる「女声」を出したいと知恵をこらす毎日です。さてどんなぶらぶらになるのでしょうか。ご期待ください。（M・Y）



10月16日「大音楽会」

☆ ナターシャさんと
被爆地の子どもたちが歌う
♪あの子 ♪ねがい

☆うたと語りの合唱構成
「平和の旅へ」・・・20分の演奏
被爆者・渡辺千恵子さんの半生を綴ります。最終章「平和の鐘を鳴らそう」は、1000人の大合唱で、核兵器廃絶の声を世界に発信します。

☆龍踊り
鶴鳴学園長崎女子高校龍踊り部。

日本のうたごえ祭典 in 長崎

プログラムの ここに注目

混声合唱

「悪魔の飽食」と「大地讃頌」

組曲「悪魔の飽食」は1984年、森村誠一氏の同名の小説から生まれました。日本の中国侵略のなかで旧日本陸軍（関東軍731部隊）は中国人やロシア人捕虜（マルタと呼ばれた）に対して、残虐極まりない人体実験を行っていたのです。

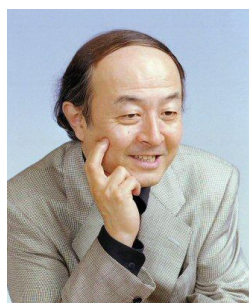
森村氏の原詞で、池辺晋一郎氏編詞・作曲によるこの組曲は、全7曲ですが、今回はその中から、♪赤い支那靴 ♪君よ、目を凝らしたまえ の2曲が、組曲「土のうた」の終曲である ♪大地讃頌 とともに歌われます。

「ナガサキから世界へ 大音楽会」（10月16日）で、約500人によって演奏されるこの大合唱を指揮するのは、全日本合唱連盟理事長の浅井敬壹氏です。（写真右）浅井氏は幼少を中国東北部で過ごし、「いまま脳裏に焼き付いて離れないのは、間近で目撃した日本兵による中国人殺傷の残虐な光景。それと広大な大地」と言います。



中学校の合唱曲としても有名な「大地讃頌」をこよなく愛し、戦争を憎む同氏が、この3曲を一体のものとして、県立総合体育館（アリーナかぶとがに）で指揮棒を振ります。

「悪魔の飽食」によせる 作曲家・池辺晋一郎氏の想い



「先人の重大な過ちと罪に対し、単に告発したり糾弾するのみではいけないはずだ。同じ民族としてその罪に連座するつもりは弾劾でなくてはならない」「それらの歌を、たくさんの日本人の、罪の連座からわき起こるべきものになりたいと願っている。歌のわき起こる土を、一人でも多くの人で形成したい」（写真左）

お知らせ

長崎祭典の宣伝

■8月11日（水）16時
鉄橋で、アコーディオンやギターも鳴らし、「折り鶴」などを歌いながら祭典チラシの配布とチケット購入を呼びかける楽しい宣伝です。ぜひご参加ください。

「高齢者のうたごえ」

演奏曲 ♪かけがえのない人生を
♪折り鶴
演奏日 10月16日（金）
指揮：田中 實

「高齢者と被爆者のうたごえ」の練習日が決まりました。

8月は27日（金）午後1時、9月17日（金）午後1時。場所はいずれも市民会館1階の音楽室です。

いまのところ、年金者組合コーラス部・としわ会の人たちが中心ですが、「日本のうたごえ奈良祭典」のDVDなどを観て、祭典のイメージや雰囲気伝えるなど、合唱に参加する人をひろげる取り組みを進めようと話し合っています。

加害の歴史にも目を向けて 核兵器廃絶の声を世界に

私の父は旧満州国の官吏でした。終戦直前に現地で招集され、終戦4日前の8月11日に戦死とされています。母は4人の子どもを抱えて長崎に引きあげました。浅井氏と同じ歳の長姉はその直後に栄養失調でなくなりました。私が、満州国という「負の遺産」を精算するために、自分は何ができるかを考え、「悪魔の飽食」という曲に興味を持ったのは、数年前に観た「赤い月」という芝居でした。「大音楽会」で歌う、一曲目の「赤い支那靴」は、中国人捕虜の男性が、幼い娘の誕生祝いに用意した靴を人に託し、「この靴を履いてできるだけ遠くまで歩いて・・・と、再び会うことのない娘への愛情を歌います。次の「君よ、目を凝らしたまえ」では、「科学を悪魔に渡してはならない」と叫び、「だから、未来のために私たちは集まろう」と呼びかけます。「大地讃頌」では、大地の美しさと豊かさをたたえ、「のびやかに生き、人間としての使命を果たしたい」と高らかに歌います。長崎に投下された悪魔の兵器・原爆。核兵器廃絶への流れが大きく広がりを始めた今だからこそ、日本の加害の歴史にも目を向けることは、大きな意味を持っていると思います。（企画委員長・水田泰大）

「長崎祭典」の舞台
ここが魅力